ビジネスとしての東大受験

億を稼ぐ悪の受験ハック

黒田将臣

監修 西岡壱誠

東大受験は1億円の儲け話です!

一般・推薦・AO入試を最短最速で攻略する「**裏ワザ**」で**学歴でラクして稼ぐ禁断の受験術**を**完全ガイド**!

『東大読書』『ドラゴン桜2』の**西岡壱誠** 監修

ビジネスとしての東大受験

億を稼ぐ悪の受験ハック

黒田将臣

星海社

234

SEIKAISHA SHINSHO

はじめに
東大で儲けたいあなたに

今、東大生というのは稼げる職業です。
テレビでは『ドラゴン桜』『2月の勝者』のような受験モノのドラマ作品が人気ですし、『東大王』『さんまの東大方程式』などのバラエティ番組や『QuizKnock』といったYouTubeチャンネルで、もはやタレントと言っても過言ではない有名東大生が毎日のように活躍しています。
伊沢拓司・河野玄斗・水上颯・西岡壱誠といった「東大本」「東大生YouTuber」「東大生タレント」を多くの日本人が消費している現代、東大生はもはや立派な「職業」になってきているのです。
もっと言えば、この現象は東大に限りません。京大生や早稲田生、慶應生も同様に、大

学名を売りにしたインフルエンサーが増え、中には高い支持を得ている人も出てきています。
高学歴であればあるほど、在学中に稼げる世の中が既に来ているのです。
そして、こんなに時代が変わっても社会には学歴フィルターが厳然と残っており、就職活動でも大学は評価されます。
一攫千金を狙うにせよ、安定を求めて就職するにせよ、今や受験とは一種の就職活動であり、もっと言えばビジネスなのです。

確かに勉強には価値があり、受験には意味があります。
勉強することは自分の可能性を広げてくれます。
しかし、受験勉強にそんな高尚な理由が必要でしょうか？
ビジネスとして受験を捉えて、金儲けのために受験をする人がいたっていいのではないでしょうか？

みなさんは、大学の偏差値が１上がると、その後の生涯年収がいくら変わるか知っていますか？

大学別の年収ランキングを参照すると、大学の偏差値が「５」違うだけで、年収が50万円は変わってきます。偏差値１は、年間10万円の差になるのです。22歳で卒業して65歳まで働くとすると、43年。偏差値１上げるのは、４３０万円に相当すると言えます。

偏差値５アップなら約２０００万円、偏差値10アップなら約４０００万円、偏差値50から75まで上げて偏差値25アップすれば、なんと１億円に相当するのです。

僕がこの本でお話しするのは、「１億円の儲け話」です。

この本では「いかに合理的に、受験というゲームを攻略するか」を考えます。コストパフォーマンス良く、無駄な努力をせず東大に合格するための方法論を提供し、多くの若者の「ビジネス東大合格」を支援します。

最初に結論を言ってしまうと、教育ビジネスで効率良く稼ぎたいなら、一般入試を裏技でハックするのが最速です。受験勉強に多大な労力と時間を割くことなく学歴を手に入れたいなら、推薦・ＡＯでラクして進学するのが正解です。その理由は本編で種明かしします。

一般入試であれ推薦・ＡＯ入試であれ、大学受験はうまく「お金儲け」をするための手段なのだと、この本で気づいていただければと思います。

これこそが、令和の受験。

全く新しい、これからの時代の受験の常識をお教えしましょう。

目次

はじめに　東大で儲けたいあなたに　3

第1章「東大」で億が儲かるメカニズム　13

もはや一般入試は古い!?　14
「東大」はビジネスになる　19
東大ブランドでの稼ぎ方は3つある　22
東大のイメージで稼ぐ方法　24
東大の人脈で稼ぐ方法　30
東大の最低保証　35

第2章 大学受験をハックして誰でも高学歴が手に入る秘密のメソッド 39
莫大な教育投資で成り立つ今の受験業界 40
塾や予備校は「ライザップ」である 45
受験業界が独占していた「受験メソッド」を公開する 51

第3章 一般受験をハックする3つの黒いテクニック 55
1 語彙力＝アンチリテラル 58
語彙力は誰も教えない受験重要分野である 58
選択問題以外も語彙力でクリアできる！ 63
語彙力を磨くためのおすすめ参考書 66

2 論理的思考力＝アンチロジカル 69
大学入試では「論理的ではない考え方」は正解にならない 69
言葉で切る／言い過ぎているものは全部間違い 70
アンチロジカルを使いこなすには語彙力が必要 76
論理1 変化 81
一見「変化」に見えない、変化を指す言葉がある 83
論理2 事実と意見 88
論理3 否定 99
選択問題で使えるアンチロジカルシンキングの実践 105
論理4 因果関係 113
3 読解力＝アンチリーディング 117
テクニック1 キーワード読み 118
テクニック2 逆算読み 127
テクニック3 類推読み 134

長文の内容を類推するさまざまな「常識」 139

第4章 推薦・AO入試をハックする3つの黒いテクニック 143

推薦・AO入試も結局「数字の勝負」? 144
客観性を持とう 148
推薦入試はどんなポイントが評価されやすいのか 150
能力1 やりたいことがある/自分の意見を言う能力 155
能力2 一貫性がある/一貫性を作れる能力 165
能力3 炎上リスクがない・嘘をつかない/素直である能力 177

おわりに 188

第1章

「東大」で億が儲かるメカニズム

もはや一般入試は古い!?

突然ですが、みなさんは今の大学生のうち、どれくらいが一般入試で進学したかを知っていますか？

２０２０年の文部科学省調査によると、大学進学者全体では一般入試が52・３％、ＡＯ13・５％、推薦入試33・７％と、一般と推薦・ＡＯがほぼ半々になっています。

また、私立大学を見ると、合格者のうち55・６％が推薦・ＡＯ入試での合格者となっており、一般入試の割合の方が低いのです。

端的に言ってしまえば、この令和の時代において、一般入試をする人間は、少数派なんです。

僕の親は今年60歳になります。その世代は、大学受験といえば努力に努力を重ね、寝る間も惜しんで受験勉強をしなければならなかったと言います。そうやって頑張って、早稲田慶應、もっと上なら東大京大という学歴が手に入っていた時代だったそうです。そうして頑張った学生が就職でも評価され、会社に入ってからも学歴で評価されたわけです。

だからその時代の感覚で、親御さんは「あんた、勉強しなさい！」とよく言いますよね。勉強しろ、宿題をやれ、塾に行け、いい大学に入れば人生安泰だ、と。

でも、もうこの令和の時代において受験勉強を頑張るのは時代遅れなのです。今やマジョリティとなった推薦・ＡＯ入試で評価されるのは、課外活動やコミュニケーション能力です。

極端な話、学校でｅスポーツ部に入って、ゲーム仲間と楽しくワイワイ遊んで、みんなで大会も出て、コミュニケーション能力を身につけていた方が、真面目に勉強するよりもいい大学に行けるかもしれません。

一般入試は少数派の競技になりました。というより、持たざるものの競技になりました。有名な進学校であっても、「頭がいい人」は共通テストも受けずにいい大学に推薦合格が決定していて、高３の10月には入試が終わっています。

それに対して、授業態度が悪かったり、課外活動をあまり積極的にやっていなかったりする学生、つまり「頭が悪い人」の方が、一般入試をするんです。

というわけで、受験戦争で東大を目指すのって、もう古いんですよ。

というか、東大だって２０１６年度から推薦入試がスタートしました。共通テストの点数は加味されますが、それでも一般入試合格者以下の学力で合格している人がたくさんいます。僕が知っている中では、共通テストで９００点中６００点、つまり7割以下の成績で推薦合格している人もいました。

7割って、偏差値に換算すると55以下です。東大合格者の半数が共通テストで9割以上取っていて当たり前に偏差値70以上である一方で、推薦入試ではこの成績でも東大に合格ができるのです。この成績は一般入試であれば東大の足切りラインを下回っていて、二次試験を受けることさえできないのに。

こんな時代の中で、それでも一般入試を頑張る意味って、どこにあるんでしょうか？

僕は2浪して東大に合格した人間です。

中学受験に失敗し、私立の中高一貫校に入り、そこから苦労と努力をして、時間はかか

りましたがなんとか一般入試で東大に合格しました。

学力を付ける努力をした覚えはありません。姑息な手を使って、予備校の入試分析を知り尽くし、傾向と対策を練り、執念で合格したと思っています。そんな苦労を繰り返した自分と比較して、推薦合格した友達がどれだけ輝いて見えたことか。

彼女は僕と同じように中学受験に失敗して中高一貫校に行った人でした。しかし僕とは違って、大学受験のことなどあまり考えず、のびのびと生徒会活動を行っていたそうです。そして、高校3年生の10月に、先生から「お前、全然勉強してないけど推薦入試に挑戦してみたらどうだ?」と言われたのだとか。

「共通テストの点数だとお前はダメダメだが、コミュニケーション能力が高いし、いけるんじゃないか?」と言われたその日から彼女は東大の推薦入試のために努力し、合格を勝ち取りました。

共通テストは620点、受験に費やした時間は4ヶ月です。

片や、高校3年間の青春の全てと2年の浪人期間、合わせて5年間で、「東大合格」とい

う限られたステージでしか活かせないような技術だけを身につけた自分。
片や、高校3年間、やりたいことを楽しくやって、遊びながらもいろんなものに挑戦し、社会に出てからも活かせるようなスキルを身につけた推薦合格者。
みなさんだったらどっちと仲良くなりたいですか？
そして経営者だったとして、どちらを採用したいですか？

ここではっきりさせておきましょう。
令和の時代、推薦・AO入試の方が輝かしいものなんです。才能があり、可能性があり、頭が良い人間は、絶対に推薦・AO入試に取り組むべきです。
そして逆に、一般入試は闇の勝負へと堕(だ)したのです。才能がなくて、可能性がなくて、頭が悪い人間が、そして誇れるものなどない人間が一発逆転を賭けて挑むものが、一般入試なのです。

僕は、「一般入試をなくそう」とか「みんな一般入試を受けるべきだ」と言いたいのではありません。

一般入試というものの質が大きく変わっているのだということを、みなさんに正しく認識してもらいたいのです。

時代は変わった。これが令和の大学入試のスタンダードです。

この本は、この前提でお話ししていきます。ここまでの認識を頭に入れておいてください。

「東大」はビジネスになる

さて、2021年には日曜劇場『ドラゴン桜』が大流行しました。ハッシュタグ「#ドラゴン桜」は何度もツイッターでトレンド入りし、受験モノの企画・ドラマは令和の時代にも強い、ということが証明されました。

日本人は、受験や東大というものが好きです。

テレビでは『東大王』『さんまの東大方程式』などのバラエティで東大生タレントが登場し、『QuizKnock』のような東大生YouTubeチャンネルも多く存在していて、そのまま卒業後もYouTuberとして活躍する例がいくつもあります。

冒頭でも紹介した伊沢拓司・河野玄斗・水上颯・西岡壱誠らの勉強法は、多くの日本人が参考にしています。

なぜこれだけ一般入試が廃れてきている中で彼ら彼女らの勉強法がウケているのかというと、答えは簡単です。受験生ではなく、大人が東大というブランドに惹かれているからです。

河野玄斗さんの『シンプルな勉強法』は10万部売れて、文庫化してさらに売れているわけですが、この本の客層を見ると読者層の8割が20代以上です。

西岡壱誠さんの『東大読書』は20万部売れている本ですが、この本の客層も、9割の層が20代以上です。

大人の学び直しは、今や大きな市場です。「東大に合格するような学力をつけている人から学びたい」という需要があるのです。

はっきり言いましょう。今や、一般入試で東大をはじめとする有名大学に入る意味は、「圧倒的に稼ぎやすい」ということなのです。一般受験は教育ビジネスや受験産業で活躍し

たい人が名を上げるための場と言っても過言ではありません。ただ東大に合格したいだけなら、推薦で入学する方が遥かにラクなのですから。

それでも、世間的な評価として、東大に一般入試で進学して「ちゃんと勉強した人間」だと認めてもらえるということは非常に価値が高いのかもしれません。

例えばこんなに時代が変わっても社会には学歴フィルターが厳然と残っており、就職活動でも通っている大学が評価されます。こんなに入試が変わってきているにもかかわらず、日本人にはやはり未だ根強く、「東大生」を評価したがる「東大信仰」が生き残っているのです。

もっといえばやはり、ＡＯや推薦合格者よりも一般入試に合格した人の方を企業としても採用する場合が多いです。「一般入試で頑張って有名大学に合格した人間」を評価したがる、「努力神話」が根付いているのです。

ここであえて極論しましょう。受験とは、「就職活動」の一環だと定義してしまっても差し支えないのではないでしょうか。

だって考えても見てください。東大生って、立派な「職業」ですよ。

東大生タレントがたくさんいて、それだけでお金儲けしています。東大生で勉強法の本を出す人間がたくさんいます。「東大生が作った塾です！」とか「東大生が集まって起業しました！」というような会社であればいろんな投資家からの出資が見込めます。

さあ、ここまで読んでいただいて、この本のタイトルをもう一度見てみましょう。

本書では、大学入試という就職活動を、いかに効率的に、いかにビジネスとして乗り切るのかをお伝えさせていただきます。

『ビジネスとしての東大受験』です。

社会で活きる「稼ぐための受験のメソッド」をこそ、みなさんに身につけていただきたいと思います。

東大ブランドでの稼ぎ方は3つある

ここまで「東大は儲かる」という話をしてきましたが、東大とお金儲けが直観的に結びつく方は少ないのでしょうか。

僕も、東大生に「机上の勉強はできるけど実社会のビジネスには疎い」というイメージがあることは否定しません。正直、周囲の東大生を見ていて、「学歴を使えば社会でいろいろなことができるのにもったいないなあ」と思うことはよくあります。多くの東大生ですら東大の価値を知らないのです。

ただ、東大が「儲かる」ことに気付いた一部の目ざとい東大生は、非常に合理的に東大ブランドを使って商売をしています。

まず、誰でもわかる簡単な話から始めましょう。「東大生　バイト」と検索すれば時給5千円で家庭教師のバイトにありつくことができます。時給5千円ということは、月100時間やれば50万円です。大学に通いながらでも、年収600万を手にすることができます。

これは東大に限りません。京大生や早稲田生や慶應生も、同じように高単価なバイトにありつけます。

そして恐ろしいのが、これがほんの序の口でしかないということです。東大ブランドをさらに使い倒す方法があるのです。

僕は東大生という肩書きの使い方は大きく3つあると考えています。「イメージ」「人脈」「最低保証」です。

東大のイメージで稼ぐ方法

まずは1つ目、東大の「頭がいい」というイメージを使ってどれだけ稼げるかを暴露してしまいましょう。

先ほどもテレビやYouTube、書籍などで勉強法を売り出す東大タレントの名前を挙げましたが、僕が所属する会社の代表を務める西岡壱誠がどのようなビジネスモデルで活動しているかを見ていきましょう。

彼は自らの大学受験で培ったノウハウをもとに、2018年に出版した読書術の本『東大読書』で20万部を売り上げ、さらに翌年の2019年には東大ブランドを使って1年間で9冊もの本を出しました。

これがどれくらいのお金になっているか、ざっくりした概算を出してみるとこうなります。

君は、ジセダイ 何と闘うか？

https://ji-sedai.jp

「ジセダイ」は、20代以下の若者に向けた、**行動機会提案サイト**です。読む→考える→行動する。このサイクルを、困難な時代にあっても前向きに自分の人生を切り開いていこうとする次世代の人間に向けて提供し続けます。

メインコンテンツ

ジセダイイベント 著者に会える、同世代と話せるイベントを毎月開催中！　行動機会提案サイトの真骨頂です！

ジセダイ総研 若手専門家による、事実に基いた、論点の明確な読み物を。「議論の始点」を供給するシンクタンク設立！

星海社新書試し読み 既刊・新刊を含む、すべての星海社新書が試し読み可能！

マーカー部分をクリックして、「ジセダイ」をチェック!!!

行動せよ!!!